

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成28年度第2回情報教育研究合同委員会議事記録
情報教育研究委員会
情報リテラシー・情報倫理分科会
分野別情報教育分科会

I. 日 時：平成28年7月23日(土) 18:00～20:00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局会議室

III. 参加者：屋代担当理事、斎藤委員長、牧野委員(Skype)、大原アトバイ、玉田主査、和田委員、金子委員、中西委員(Skype)、本村委員(Skype)、児島主査、角田委員、大谷委員、徐委員、武藤アトバイ、渡辺アトバイ(Skype)
事務局：井端事務局長、野本(記)

IV. 検討事項

9月7日 ICT 戦略大会の2日目D分科会で説明するため、問題発見・解決思考プロセスを身につける教育モデルとして、分野共通の初年次教育と専門教育との連携の仕組みについて検討した。

1. 情報リテラシー教育のガイドラインの見直し

- ・ 情報セキュリティに関する記述について、到達目標Bの到達点2に「情報セキュリティに関する知識を身に付け、個人や組織の安全を守ることを理解させる。」を追加した。
- ・ また、「情報社会の光と影を理解し、望ましい情報社会の在り方について考察することができる」という到達点3の説明を「情報社会で起こっているさまざまな現象を倫理的な側面から検討し、望ましい情報社会の在り方について考えさせる。」と「健全な情報社会を構築するための法律・ルールの在り方を検討させる。」にした。

2. ICT 戦略大会 D 分科会の進め方

- ・ 共通分野の問題発見・解決思考プロセスを身につける初年次教育のリテラシー部分を40分説明した上で、リテラシー能力を踏まえて専門教育の分野で情報活用能力を展開するため、経済学、機械工学、薬学の教育モデルを15分ずつ紹介することにした。
- ・ 私情協の方針について参加者の反応を確認し、理解が不足している部分の説明を重点的に行うために分科会専用アンケートを作成することにした。

3. 教育モデルについて

(1) 初年次教育

- ・ 授業モデルで取り扱うテーマについて見直しの意見が前回あり、改定案が提出された。内容としては、行政機関の統計データを活用して、青少年の抱えている問題をテーマに設定して問題発見・解決のプロセスを体験させる授業案が提案された。
- ・ この提案に対して、学生が複数の統計データを多面的に活用した授業案を検討し、情報リテラシーのガイドライン、授業方略、連携授業の仕組み、教材開発の方法、指導方法を体系的にとりまとめることにした。

(2) 専門教育との連携

初年次の情報リテラシー教育を受け、専門教育でどのように情報活用能力を展開するのか、経済学、機械工学、薬学の3分野から教育モデルが提案された。

① 経済学教育

- ・ 2年生を対象に課題発見までのプロセスを体験するモデルが提案され、3回の授業で地域調査、課題設定、情報整理、発表までの学修内容が紹介された。
- ・ この学修内容について、それぞれの学修内容がガイドラインのどの到達目標に該当するのかを整理した上で、経済学の視点を強調できるよう、例えば「地域社会と経済」などをテーマとして情報活用を行う授業案にしてはどうかとの意見があった。

② 機械工学教育

- ・ 3年生を対象にエネルギー問題のビジョンをテーマにしたモデルが提案され、3回の授業で、多様なデータベースからエネルギー事情の調査、将来像のシミュレーション、発表までの学修内容が紹介された。
- ・ このモデルを基本として他の分野を見直してはどうかとの意見があった。

③ 薬学教育

- ・ 臨床教育を対象にくすり説明書を特定の患者向けに作成するモデルが提案され、3回の授業で、医薬品情報の調査、対象患者が使用する問題点の設定、患者に情報提供すべき内容の整理、発表、振り返りまでの学修内容が紹介された。
- ・ この学修内容について、情報操作スキルや情報倫理の修得が前提条件となるので授業案に初年次学修とのつながりを説明してはどうかとの意見があった。

(3) 情報活用能力

IoT や AI、ビッグデータなど統計的なデータの読み方が問われ、結果を正しく読み解く力が求められているので、データサイエンス、統計の基礎的な知識を修得する必要があり、データを組み合わせて多面的に考察する能力が必要になる。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は、8月5日に開催することにし、教育モデルなどについて、戦略大会で提出する資料として整理して今回の検討を踏まえて見直しを行うことにした。